ヘ利12
2/85
16

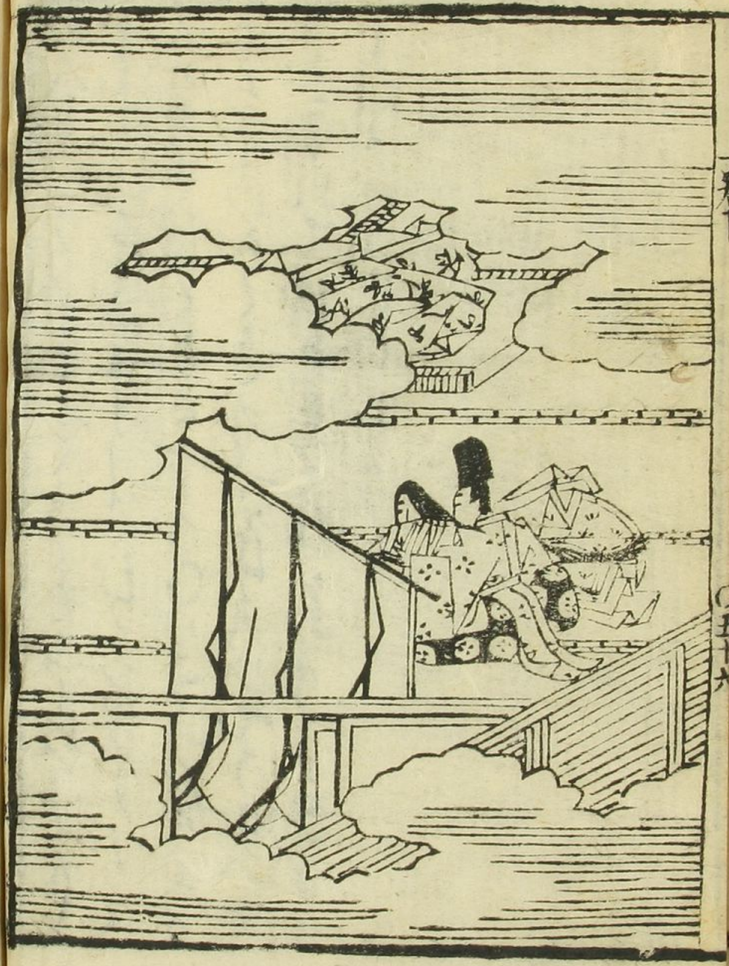
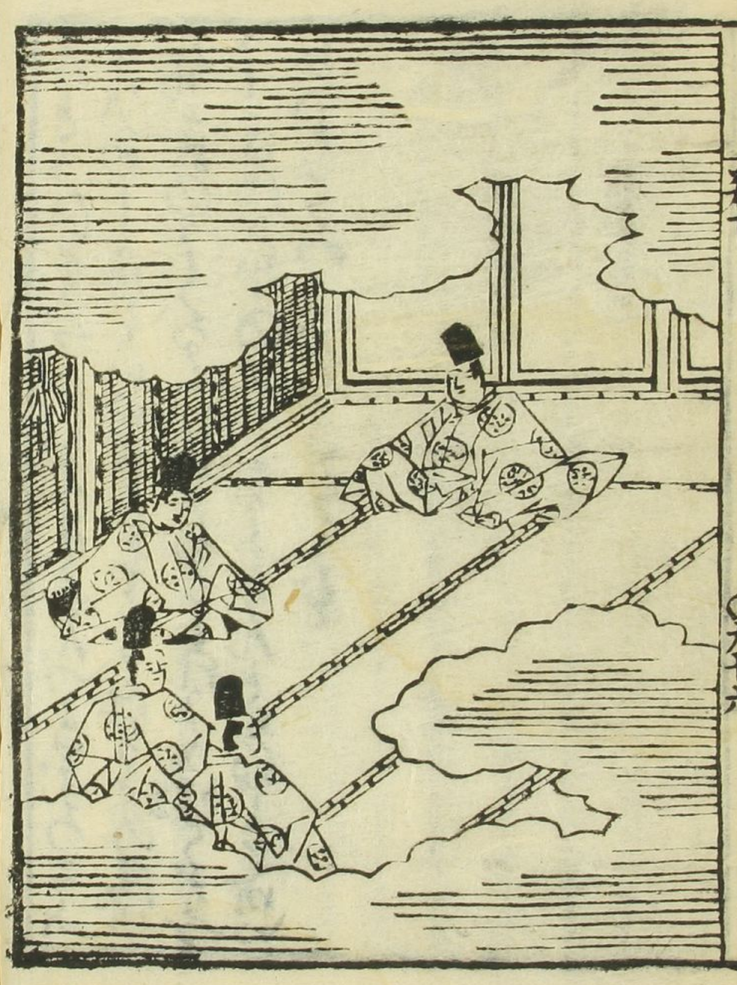
帝国図書館
2185

しきおほしひきこそかへりおほうこもいまめかし
くおもとする式ゆゑ。ぱ院おほ殿よさしつぎなら
てぱんもまいりはうまつり世人もとりくしひきこ
えそり。大将もさる世れおりしとなりかべきさる
うこなれば。姫君の法おほとなどてかかるくはあん。
きこえ出ぐんごとにふれておかれど。おぼしも
ひこめず。伯 桂桂をさも乱気ばまばとおぼしたがあ
きど。孫こゆは伯 桂桂をしひおとしなるまやうけてもしひ
よしぬぞくちおしかりけるぱ桂桂母 君のおやしくなれ
ひがめる人まで。よれつものおりさ殿ともおこずも
てくち結べる桂桂ん くちおしきものまおぼしてまくは

の法おこりをば。ぱつけてゆしくしひて。ぱよめぬこ
ゆ法んぎ殿ゆぞこものし結ける。蛍 芸アヘ気なれひ
と独ずとのんと ろのこおもして。法んまつきて覚しける
ことごもいみかへがひて。世中もしきさ殿しく
人ひくへまおぼさるくまさてのこやもおまえて
すぐしてべきとおぼして。このひくりまれ気なんこ
よるまれば。大学なるまかしばうんとしりん女
ごをば。気づくへまほぎて見えてくちまこそは見
せなしめ。ぬく人のすくよりにな残くしきをの
こいまの此人のうしくする。しれなきつぎな
まとのまて。いくくもなやましなれば。うけひ

まつりゝんの玉ゑまゝくあのりしげるれ沈さ蛍ノ海を
ちらくきてまふにぱやうなる世ゑなる浅みまし
うぶゝなるこゝなるこゝいふおぼしそ海なましなど
る海おりしもおそれもおぼしいでけるそれを
もまちゞくゝんきこえんとハゑひよりぎりきこ
こゞなさけくさうゝんふゝきさ海まのまひつゝり
しとおゑなくおハつけきやうまやきておとしまひ
ゝんとゝいとゝづしくさしゞろもおぼしとゝる
ことなれバゝ沈おくり式ウノまてさ蛍ノ沈ゝんことも
づゝひきゝあべくるどおぼしてこれよりもさるべき
ことはおつかひきこえ沈。桂桂ノをうとの君遅なるどし

てゝ沈ゝしきもしらずゝかにゝよくゝらずきを
えまつりしなどするに。ゝゝらるしくもてゝなれさ
ゑ沈ゝ心をちきこまおぼ桂桂ノ松母ゆゑりといふさゞれりゑで。
はしまゆるしなくゑんじきこえ沈ゝ式ウノ行こゝちへのご
うまふこゝんなくてゝ沈ゝんとゞにこゝそもゝやうな
らぬなぐさめまれゑふべ分れとむ内りまゝ蛍ん天も
もゝきゝまひてゝいとゝきゝなるゝゑこゝうゑむとし
いとあまれとゑひしんとをきそよゝ沈ゝるれ
ゝのすさひハこえぎりしかどうゝさびしき抱ゑ
んじハことになりしものとゝんづきなくいとゝ
昔をこひきゝゝまひつゝゝうさとにうちなゞめ

なり。六条の女法の法もしれいちの文。皆まゐまひ
ぬ。さうべきことゝうれてありひしがどさしおくりて
ハ狂めでたくめおどろうるてつぎ取りぬ大極殿。
大納言よりまひて遣いのたまうつりまぬい
まくわくまほしき法なるしひなり。六条院ハお
まゐまひぬる法中院の法つぎおりまさぬとおう
ぜ法人のうちに美に。おまゐしすぢなれどぶひか
やましき法となくてまじしまつるがうまづく
いくれてずまの世までいえつくまましうりけり法
すくをにおしくざうじくおぼをどへまのまひ
おまをぬとなれバいがをくなん。其夏の女法も。

みたちおまさまずまひまていとゞ法えくか
らびなし。源氏のうちつぎき者まゐまゐふべき
こと我世人おうずしつるたつけてもぼ東院の法
もゆへなくておぼがちまうじしを光まつる法人を
おぼまじいまく六条院の法ことゝうしはまそ
へてうざりなくしひきさまへり院のみどお
がめしきやうまゐ有きとしてきたくてつる法
なぜつゞくてしとぞひめでたくおくまほ光
法まゐなり姫女の法とハ三上どぼんちゞめて
おひきそ法おほうゝ我まゐもおまひくまてう
しづれまゐ。さいの六人の法いきなひまハえ後